

 沓掛小学校だより
未来を拓く ~元気・やさしさ・かがやく瞳~

11月号

<http://www.suginami-school.ed.jp/kutsukakesho>

NO. 594

読書に親しむ

校長 鈴木 祐一

運動会には、たくさんのご声援とご協力をありがとうございました。今年の運動会は、3連休、4連休が多くあり、まとまって練習することができませんでした。朝早くから休み時間・放課後にも練習を重ね、運動会を実施することができました。運動会は、紅白で勝敗を競うので、必ず勝ち負けがあります。勝つことを目指して必死に頑張ることは大切なことです。負けたときには悔しさがあふれるのもよいと思います。でも、その中で最も大切なことは、勝っても負けても全力を尽くすことです。これからも「がんばることは素晴らしい!」「負けても最後までがんばる姿はすてきだ!」と思う子供を育てていきたいと願っています。苦しくても頑張ったことを認められた子供は、達成感を感じます。達成感には自信や意欲につながります。自信をもつと意欲が増します。意欲をもって行ったことは達成感につながります。また、達成感には、新たな自信となります。自信→意欲→達成感→自信・・・というサイクルを経ることで、子供は大きく成長します。これからは学校生活において、子供たち一人一人が自信をもつことができる指導を進めていきます。

秋は、「読書の秋」といわれるように日が短くなり、読書に親しむには良い季節です。子供たちの読書活動には、好きな本を読むだけでなく、情報を読み解き、自分の考えを形成していく読書の必要性が指摘されているそうです。小学校低学年における語彙の量と質の違いが学力差に大きく影響しているという指摘もあり、言語能力を育てていくことは小学校において大切なことです。また幼児期から学童期に向けての読書能力形成が、その後の社会人・職業人として自立に向けた学びに影響するという意見もあるそうです。そのため子供の読書活動を推進するためには、学校教育だけでなく社会全体で考えていかなければと考えます。

近年、スマートフォンなどの普及に伴い、情報通信技術を利用する時間が増加する傾向にあります。情報に触れることは簡易になるのですが、視覚的な情報と言葉との結びつきが希薄になってきており、情報の意味の吟味や文章の構造や内容を的確に捉えて読解することが少なくなってきています。学年が進むにつれてその傾向が明らかになっているようです。

子供たちが良い本と出会い、言葉を学び豊かな感性を磨き表現力を高めるとともに、自分の考えを形成し相手に伝える行動を通して生活を送ることは大切なことです。

学校では、学校図書館の蔵書の配列を工夫したり、廊下等を活用した展示コーナーを設置したりして、子供たちが本に触れやすい工夫をしています。また、朝読書、お話会どんぐりの方々による読み聞かせ、国語科の授業を中心にしたブックトークやアニメーションなど、本を読むことの楽しさを知ってもらうための取組を年間を通して行っています。また、10月の図書館だよりでは、表面は共通の内容ですが、裏面では、学年向けに先生方からおすすめの本を紹介させていただきました。近年、家庭環境等の変化により、家で落ち着いて本を読む機会が少なくなっている指摘もあります。特に、高学年から中学校での時期での時間の確保が課題であります。読書する習慣形成は小学校段階で大切なことです。

秋の夜長に、家庭で少しの時間を読書に充ててはどうでしょうか。一日15分の読書でも効果があるそうです。日々の積み重ねが読書の習慣形成につながると思います。

御心配をおかけしておりました栄養士が決まりました。11月1日より、まえだ前田 かなめ要 栄養士が勤務いたします。よろしくお願いたします。